日特建設株式会社

第66期 期末報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成25年3月31日

NITTOC
日特建設株式会社

株主の皆様へ

代表取締役社長
中森　保

当連結会計年度における建設業界は、民間設備投資については、改善の兆しが見受けられ、公共建設投資については、他社との激しい受注競争が続く環境下にはありますが、復興事業の進展に伴い、堅調に推移しました。

このような事業環境において、当社グループは、中期経営計画の事業戦略である「基礎分野における補修・防災技術の強化によるシェア拡大」を推進してまいりました。具体的には基礎工事の独自工法の売り込み、災害復旧・復興工事の受注があったものの、エネルギー政策の見直しなどにより過去に受注した工事の数量減による減額処理を約20億円行った結果、受注高は50,433百万円（前連結会計年度比3.3%減）となりましたが、一方、売上高は53,247百万円（前連結会計年度比2.2%増）となりました。

また、当社が得意とする基礎工事の売上高が増加したこと、採算性を重視した受注を行ったことにより、基礎工事の利益率が改善した結果、営業利益は2,438百万円（前連結会計年度比20.3%増）、経常利益は2,249百万円（前連結会計年度比19.8%増）となり、当期純利益は、繰延税金資産約15億円を計上したため、3,552百万円（前連結会計年度比94.9%増）となりました。

なお、当連結会計年度の期末配当につきましては、前連結会計年度から2円増配し、6円とさせていただきます。

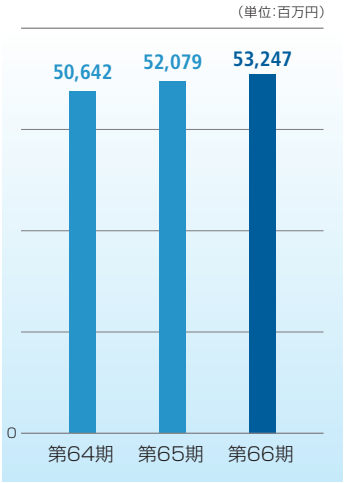
今後の見通しにつきましては、建設業界におきましては、民間設備投資については、円安による製造業の輸出環境の改善などから企業業績回復による増加が期待されます。一方、公共建設投資については、政府の国土強靭化策による全国の防災・減災対策や社会資本整備の更新、また東日本大震災の復興需要等により、堅調に推移するものと思われます。しかし受注競争の激化や発注量の地域格差の拡大、労務費、資材費等の高騰による業績への影響も懸念されます。

このような環境の中で当社グループが対処すべき重要課題は、内部統制（コンプライアンス、リスク管理）の強化、安全重視の経営、基礎工事分野の量の確保、収益性の維持、キャッシュ・フロー重視の経営と捉え、コア事業へ経営資源を集中し、グループ役職員が一丸となって、さまざまな改革に取り組み、経営環境の急激な変化に対応できる体制を整え、中期経営計画〔StepⅡ〕（平成23年度～平成25年度）の経営目標である、連結営業利益率3.0%以上、連結自己資本比率35%以上を目指し、努力を重ねる所存であります。また最終年度である平成25年度は、更なる成長戦略に向けた次期中期経営計画〔StepⅢ〕の策定を予定しております。

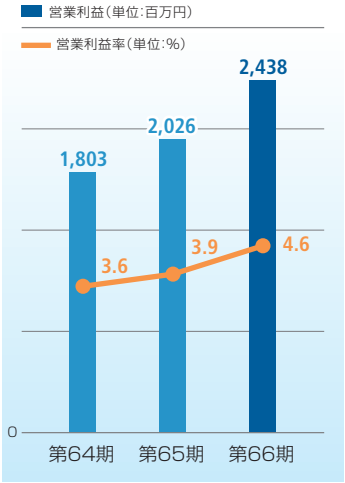
株主の皆様におかれましては、今後とも何とぞ格別のご理解とご支援を賜りますようお願いします。

財務ハイライト（連結）

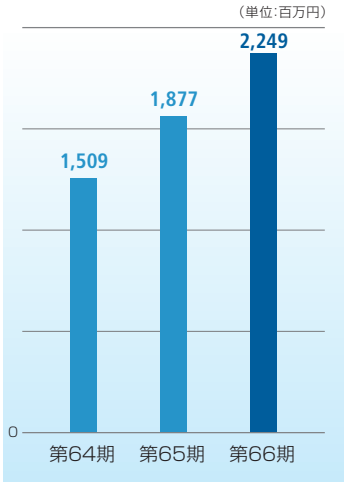
売上高



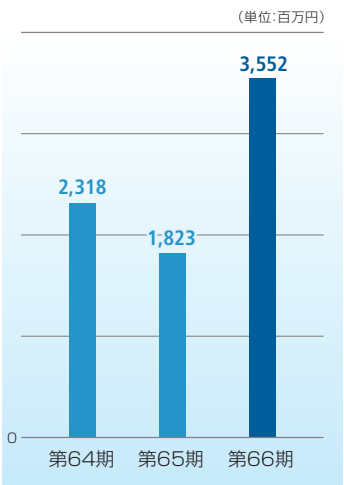
営業利益／営業利益率



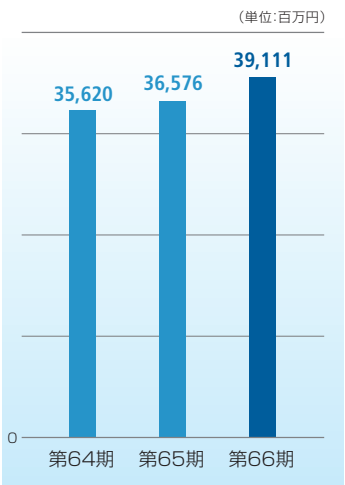
経常利益



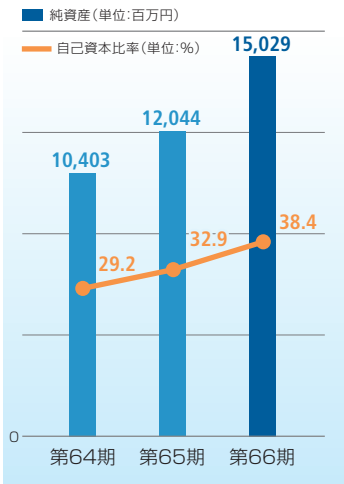
当期純利益



総資産



純資産／自己資本比率



連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科　　目	当　　期 平成25年3月31日	前　　期 平成24年3月31日
資産の部		
流動資産	29,611	28,794
固定資産	9,499	7,781
有形固定資産	6,720	6,664
無形固定資産	206	204
投資その他の資産	2,572	913
資産合計	39,111	36,576
負債の部		
流動負債	18,058	17,509
固定負債	6,023	7,022
負債合計	24,082	24,531
純資産の部		
株主資本	14,902	11,997
その他の包括利益累計額	126	46
純資産合計	15,029	12,044
負債純資産合計	39,111	36,576

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　　目	当　　期 （自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日）	前　　期 （自 平成23年4月 1 日 至 平成24年3月31日）
売上高	53,247	52,079
売上原価	45,994	45,474
売上総利益	7,253	6,605
販売費及び一般管理費	4,814	4,578
営業利益	2,438	2,026
営業外収益	68	73
営業外費用	258	223
経常利益	2,249	1,877
特別利益	32	90
特別損失	3	42
税金等調整前当期純利益	2,279	1,925
法人税等	△1,273	102
少数株主損益調整前当期純利益	3,552	1,823
当期純利益	3,552	1,823

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　　目	当　　期 （自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日）	前　　期 （自 平成23年4月 1 日 至 平成24年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,933	723
投資活動によるキャッシュ・フロー	△206	△202
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,756	△936
現金及び現金同等物の増減額	2,969	△414
現金及び現金同等物の期首残高	9,163	9,578
現金及び現金同等物の期末残高	12,132	9,163

～環境防災分野～

わが国は地形地質的に自然災害を受けやすい条件にある上、近年は地球温暖化による異常気象により、災害が頻発しています。

そのような中で当社は、地球環境に優しく安全・安心な社会を構築するため、コンクリートを使わない斜面保護工法や、工事現場で発生する土や伐採木を使った植生基材吹付工法などといった環境に配慮した防災工法を開発し、提供しています。また、法面防災に欠かせないアンカー工法においても、数多くの施工実績を有しています。

ジオファイバー工法

サンダーグリーン工法

ファイバーソイル緑化ステップ工法

カエルドグリーン工法

ネッコチップ工法

自生種回復緑化工法

Licos

Aki-Mos

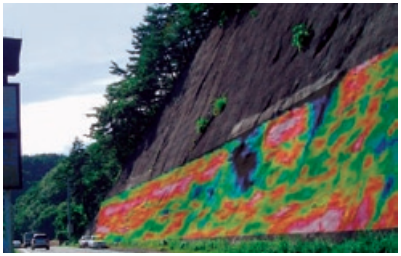
DSS地盤探査技術

～維持補修分野～

当社は法面の施工を得意とし、これまで数多くの実績を積み重ねてきました。社会資本老朽化の波の到来に合わせ、既設法面の補修・補強工法だけでなく調査・診断技術も独自に開発し、維持管理をトータルにコーディネートできる体制を整えています。

また、材料の長距離圧送や高強度化に注力し、山間部等の過酷な条件下や、長距離の導水路トンネル等、維持工事が難しいとされる条件でも確実に施工できる工法を保有しています。

ニューレスプ工法


Slope Doctor

キロ・フケール工法

パフェグラウト工法

HiSP工法

アドバンテージ工法

～都市再生分野～

災害に強い都市に生まれ変わるためには、今ある構造物を再生・再構築する必要があります。しかし、すでに構造物が密集した都市での施工は、決して容易ではありません。

そこで当社では、構造物が密集する都市特有の狭隘な条件下でも施工可能な、耐震補強工法や液状化対策工法、既存杭撤去工法を開発し、都市再生へ貢献しています。

エキスパッカ-N工法

スリーブ注入工法

パワーブレンダー工法

DCS工法

WinBLADE工法

親杭パネル工法

Re.ボーン-パイル工法

小口径杭工法

スプリッツアンカー工法

技術紹介　～代表的な技術～

ジオファイバー工法

砂とポリエステル繊維を混合した補強土で斜面を保護する工法です。
セメントを使う他の工法に比べて表面に草木を生やして緑の景観が回復でき、二酸化炭素が削減できる点が優れています。

ニューレスプ工法

高度経済成長期に全国で建設されたコンクリート（モルタル）吹付法面の老朽化が進み、補修・補強が求められています。
従来の方法とは異なり、老朽化した吹付コンクリート（モルタル）を剥ぎ取らず、その上に有機繊維を混ぜたコンクリートを吹付けて補強します。廃棄物が少なく、安全かつ早く施工できます。

液状化対策注入技術

砂地盤に特殊な薬液を注入して固め、地震時の液状化を防ぐ工法です。
地盤中で柱状空間に薬液を浸透させる「エキスパッカ-N工法」や、平面的に薬液を吐出させる「スリーブ注入工法」があり、多様な地盤・施工条件に対応できます。
また、最大8ポイントの注入量や圧力を集中管理できる「スリーPオクト･システム」も活用しています。

港湾岸壁の耐震補強グラウンドアンカー技術

地盤内に挿入した高強度の鋼線が発揮する引っ張る力で港湾岸壁の動きを抑制する技術です。
斜面防災工事で培ったグラウンドアンカーの技術を港湾岸壁の耐震補強に応用しました。国内最大級の削孔機械「EinBand（アインバンド）ドリル」や鋼線の緊張作業で使用する「Licos（リコス）」などの先端技術を駆使しています。

会社概要　（平成25年3月31日現在）

商　　号	日特建設株式会社
	NITTOC CONSTRUCTION CO., LTD.
本　　店	東京都中央区銀座8丁目14番14号
	（銀座昭和通りビル）
設　　立	昭和22年12月17日
資　本　金	6,052百万円
許　　可	建設業許可・特定建設業、一般建設業
	国土交通大臣（特・般-23）第211号
	（平成23年10月25日・更新、
	平成23年11月8日・許可）
免　　許	宅地建物取引業免許
	東京都知事（1）第91766号
	（平成22年5月21日・許可）
登　　録	建設コンサルタント登録
	国土交通大臣　建21第15号
	（平成21年10月1日・更新）
	測量業者登録
	国土交通大臣　第（13）-435号
	（平成20年9月3日・更新）
	地質調査業者登録
	国土交通大臣　質24第2号
	（平成24年11月30日・更新）

従業員数	839名	
技術者構成	博士	1名
	技術士	37名
	技術士補	30名
	RCCM〈シビルコンサルティングマネージャー〉	8名
	1級、2級建築士	8名
	1級、2級建築施工管理技士	14名
	1級、2級土木施工管理技士	655名
	2級土木施工管理技士（薬注）	236名
	1級、2級建設機械施工技士	56名
	1級、2級造園施工管理技士	21名
	1級、2級管施工管理技士	9名
	1級、2級電気施工管理技士	3名
	測量士、測量士補	255名
子会社および	緑興産株式会社	
関連会社	島根アースエンジニアリング株式会社	

株式情報　（平成25年3月31日現在）

株式の状況

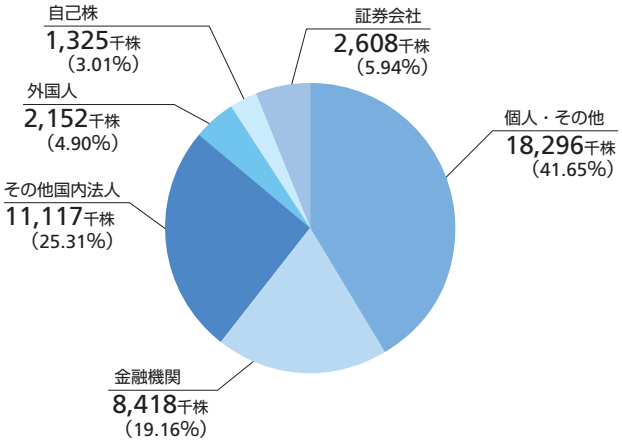
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	43,919,291株
株主数	12,405名

大株主（持株比率1%以上）

株　主　名	持株数（千株）	持株比率
株式会社不動テトラ	10,000	22.76%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,530	8.03%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,489	3.39%
日特建設株式会社	1,325	3.01%
日特建設社員持株会	970	2.20%
株式会社三井住友銀行	550	1.25%
株式会社SBI証券	545	1.24%
日本証券金融株式会社	531	1.20%
山内正義	519	1.18%
三井住友信託銀行株式会社	500	1.13%

（注）持株数は、千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

所有者別株式数



取締役及び監査役 （平成25年6月27日現在）

代表取締役社長	中森　保
取締役	荒井民雄
取締役	屋宮康信
取締役	三橋一雄
取締役	迫田朗
取締役	田畑滋
取締役	水川聡
常勤監査役	淀谷学
常勤監査役	作本幸治
監査役	滝口勝昭

（注）1. 上記取締役のうち、田畑　滋、水川　聡の両氏は、社外取締役であります。
2. 上記監査役のうち、作本幸治、滝口勝昭の両氏は、社外監査役であります。

執行役員 （平成25年6月27日現在）

専務執行役員	荒井民雄	技術本部長
専務執行役員	屋宮康信	事業本部長
常務執行役員	三橋一雄	直轄グラウト部長
常務執行役員	迫田朗	管理本部長
常務執行役員	山﨑雅徳	安全担当
常務執行役員	按田純輝	東京支店長
常務執行役員	永井典久	東北支店長
常務執行役員	中牟田憲吾	大阪支店長
常務執行役員	佐藤稔	事業本部副本部長
常務執行役員	山田浩	技術本部副本部長
常務執行役員	山﨑昇	技術本部担当
執行役員	千葉正樹	技術本部副本部長
執行役員	大﨑知徳	技術本部首都圏民間営業担当
執行役員	竹田弘之	事業本部副本部長
執行役員	西村秀三	管理本部副本部長兼任総務部長
執行役員	和田康夫	名古屋支店長
執行役員	川口利一	経営企画室長兼任企画部長
執行役員	山田和男	内部統制推進室長
執行役員	松本信夫	九州支店長
執行役員	阿部義宏	東京支店副支店長
執行役員	和田雅之	北陸支店長
執行役員	大塚雅司	札幌支店長
執行役員	水野隆弘	事業本部副本部長（安全環境部担当）
執行役員	萬克弘	管理本部総務部部長
執行役員	九十歩昌裕	広島支店長

事業所 （平成25年6月27日現在）

本店	東京都中央区銀座8丁目14番14号（銀座昭和通りビル）	☎(03)3542-9126
札幌支店	札幌市厚別区大谷地東4丁目2番20号（第2西村ビル）	☎(011)801-3611
東北支店	仙台市太白区富沢南1丁目18番地の8	☎(022)243-4439
東京支店	東京都中央区明石町13番18号（明石町分室ビル）	☎(03)3541-6221
北陸支店	新潟市東区紫竹5丁目26番1号	☎(025)241-2234
名古屋支店	名古屋市中区栄1丁目16番6号（名古屋三蔵ビル）	☎(052)202-3211
大阪支店	大阪市中央区瓦町2丁目2番7号（山陽日生瓦町ビル）	☎(06)6232-2109
広島支店	広島市中区広瀬北町3番11号（和光広瀬ビル）	☎(082)231-2109
九州支店	福岡市博多区下川端町1番3号（明治通りビジネスセンター）	☎(092)271-6461
直轄グラウト部	東京都中央区明石町13番18号（明石町分室ビル）	☎(03)3542-9131
営業所	旭川、函館、道東、青森、盛岡、秋田、山形、福島、群馬、宇都宮、水戸、横浜、埼玉、千葉、長野、佐渡、上越、富山、金沢、福井、岐阜、静岡、三重、京滋、奈良、神戸、鳥取、松江、岡山、山口、高松、松山、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	
試験所	埼玉、東条、緑化工	
機材センター	中央（埼玉）、恵庭、盛岡、名取、富山、更埴、榛原、東条、広島、高松、鳥栖、今市／蓮田センター／猿島総合センター	